



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行人 末吉卓也 1部60円年間刊共1100円

04年10月10日～05年10月29日 「聖体の年」 道標 【教区目標】 教会の教えを 学び直しましょう

小教区活性化について分かち合う

第十二回教区評議会終わる

「交流・養成・秘跡」宣教する小教区になるために」をテーマにした第十二回教区評議会が十一月二日(火)夜から三日(水)までカテドラルで開催された。評議員たちは、六月初めに招集状とテーマの主旨説明を受け取って以来、各小教区で分かち合ってきた内容を踏まえ、小教区の現状と今後の課題を中心に教区レベルでの分かち合いに一日を過ごした。またこの会議を終えた糸永司教は教区民の協力に感謝を述べるとともに、分かち合い、互いに学び合うことを重視した今回の評議会の所期の目的が達成された旨を伝える司教文書を発表した。その中で小教区の活性化のために全信者が参加する真に証となる小教区の再構築、そのために人から人への交流を大切に、信仰の基本を学び続ける必要、教会共同体をつくる秘跡を重視し、そのために秘跡のカテケーシスが大切であると示唆を与えた。

「二面に教区評議会を終えた糸永司教の教区民への文書を掲載」



熱心に分かち合う評議員たち

二年に一度開催の教区評議会には、今回、各小教区から主任司祭と信徒代表、専任カテキスタ、また修道会代表者、各地区長、青年代表など九十七人が出席した。通常は会期も一日に限り、具体的な諮問事項をめぐって答申をまとめる形式で開催されてきたが、今回はみことばの祭儀と懇親会からなる第一部「交わり」と第二部「二日夜」と第二部「テーマの分かち合い」(三日)という二日間の会期で実施され、内容も分かち合いを通して互いに学ぶことが中心とされた。テーマの分かち合いに先立ち、全体会でテーマにつ

いて説明した糸永司教は、鹿兒島の教会が危機的状況にあり、その現れとしてミサ参加率の低下、若者の教会離れ、司祭・修道者召命の壊滅的とも言える減少を挙げた。その上で、これらの背景にある孤立化の進む現代社会の危険性について説明し「信仰を生きる共同体の核と言える小教区があるべき姿を取り戻せるように十分に意見を出し合おう」と話した。またテーマの一つひとつについてもそれぞれその狙いを以下のように示した。

「交流」信徒間のコミュニケーションが最後の一人まで図れるように 「養成」これまで不十分

の分団会での分かち合いのまとめは、評議会最後の全体会で代表者から発表された。分かち合いが中心となつた今回の評議会では、お互いが持つ悩みに、他小教区の取り組みを聞くことで活路を見出す助けになることも期待されていたが、出席者は評議会後はできることから早速取り組みな

ら小教区の活性化の努力を続けることになろう。各小教区での分かち合いをまとめたものと、今評議会全体報告は、後日各小教区に送付される予定。なお、全体会の報告の中で、教区への提言として報告されたものが出たため、以下の六つを評議会からの提言として承認した。・教区からワールドユース

デー(ケルン開催)へ青年を派遣する ・小教区を越えた青年会の組織化 ・福祉活動を行うための組織作り ・在日外国人のための相談窓口の設置 ・インターネットを活用した情報の提供 ・信徒の奉仕者の養成

める作業に努めるカップルのように、神と人にも同様の作業が大切だと説いた。そして出席者に心の軟らかい中高生に早くよい道を示して欲しい、時間はかかるがそうすることで彼らは道を間違ふことはあつても必ず正しい道に戻ることができるとメッセージを送った。その後はグループごとに分かち合ひが行われた。

大切な中高生への信仰教育

レデスマ神父招きカテキスタ研修会

十月二十四日(日)午後、ザビエル教会で「カテキスタ研修会」が開催され、本土各地区から中高生の信仰教育関係者や親など三十人が出席した。講師は三十五年間の中高生の信仰教育に携わってきたルイス・レデスマ神父(イエズス会・長崎純心聖母会鹿兒島

「レオの信仰」心に刻む

ドミニコ会から岡本神父招き 七右衛門の列福願う川内殉教祭



岡本神父

市町村合併で薩摩川内市となつたばかりの川内教会(主任司祭ハンマ神父)で、薩摩の殉教者レオ税所七右衛門の列福を祈る川内殉教祭が行われた。十一月十四日(日)午後一時から行われた今年の殉教祭では、岡本哲男神父(ドミニコ会)が、フィリッピンにある同会経営の大学所蔵の宣教師たちの報告書等をもとに「ドミニコ会とレオ税所七右衛門」と題して講演を行った。岡本師によると、薩摩の領主島津家久に招かれた同会の宣教師たちは、当時は教皇から日本への宣教は

の説教で司教は「レオが処刑の場所に選んだ十字架は、十字架の象りを意味したと同時に、多くの人に殉教を証したいというレオの宣教への情熱を表している。すべてを信仰に結びつけて生きた殉教者の情熱に倣おう」と信徒を励ました。ミサ後、信徒たちはレオが受洗した京泊教会の跡地へ行き、当時を偲び、殉教者を称えて祈りをささげた。

殉教祭には北薩地区はもとより教区内から二百三十人の信徒と司祭が集まった。遠くは徳之島からの巡礼団やレオ七右衛門の生まれた故郷の都城からの信徒の姿も見られた。鹿兒島市内からの参加者も多く「徳之島からも来るのに、鹿兒島から行かなくてどうする!」と意気込んでいた。

全国広報担当者会議

十月二十五日(月)から三日間、中央協議会主催の広報担当者会議が東京で開かれた。鹿兒島からは末吉師が参加。テーマは、「メディアへの期待とこれからの教区広報」。各教区の広報活動の現状と課題が

報告された後、アジア司教協議会連盟(FABC)広報委員の押川壽夫那覇教区司教による講演があった。講演では、電子メディアの重要性と、アジアの人口の半分を占める若者の働きが、E(Electronic)電子工学(時代において特に大きいことなどが述べられた。

司祭評議会

十一月十六日(火)、教区本部で司祭評議会が開かれた。議題は、教区評議会の総括と、来年度の教区行事。行事では、司教区昇格五十周年をどう記念するか協議し、頭島師、泉師、末吉師が実行委員となり、信徒の参加を求めながら企画を進めていくことになった。

研修会は司教ミサで締めくくられ、教区の信仰教育の責任者としての立場から司教はその説教で「中高生のカテケーシスは困難な仕事だがやりがいがある。子どもたちは真理に飢えているから、勇気を持って万難を排し、教え続けるよう」関係者を励ました。

「小さい群れよ、恐れてはならない。あなたたちにみ国をくださるのには、あなたたちの父のみ心である」(ルカ12の32)

―皆さんの協力に感謝

小教区の活性化をめぐる先に開催された第十二回教区評議会、教区の皆さんの協力により無事終了することができました。皆さんに、そして、休日を返上し遠路もいとわず出席してくださった評議員の皆さんに感謝します。

第12回 教区評議会を終えて

鹿児島司教 糸永真一

その目的は達したと思えます。ただし、問題はこれからです。五か月にわたる分かち合いの中から、聖霊の声を聞き分け、時のしるしを見分けて、これに従う従順と困難を押し実践する勇気が求められるからです。

鳥教区も例外ではありません。教勢は伸び悩み、ミサの参加者は減少し、青少年の陰は薄くなり、司祭召命は途絶えています。この難関を乗り越えるには小教区の活性化が必要です。信者がその信仰を生き、使命を果たしていく場は、通常、小教区の他にはないから

養成、秘跡の三つです。まず「交流」とは、小教区の仲間全員をキリストにおける真の友情で一つに結びつこうと目指すことです。そのために、小教区報やホームページなどのメディア、あるいは種々の行事によってばかりでなく、何よりも個人的に顔を合わせて出会う

です。秘跡の三つです。まず「交流」とは、小教区の仲間全員をキリストにおける真の友情で一つに結びつこうと目指すことです。そのために、小教区報やホームページなどのメディア、あるいは種々の行事によってばかりでなく、何よりも個人的に顔を合わせて出会う

事ではありません。主日の交流はミサが終わってからはなく、ミサの中で行われるのです。そこで、共同体の行為としての秘跡の準備、すなわち、秘跡のカテゴリーとこれにあずかることへの構えがいかに大切であるかを理解したいものです。また、小教区活性化のための交流、養成、秘跡は切り離されたものではなく、互いに補い合う一連の活動であることも確認しておきたいと思えます。

―今後の課題

今回の教区評議会は何か特定の議題に一つの結論を引き出すのが目的ではなく、小教区の活性化をめぐる問題点を話し合い、解決に向けて学び合うことを目指すものでした。その意味で、小教区レベルから話し合いを始めた今回の教区評議会は、お互いが問題と向き合い、気づかされたことも多かったので、一応、

そこで、今回の評議会でも明らかになった問題点を少し整理しておきましょう。

①小教区活性化とは

世界を覆う世俗化の波は教会に重大な難題と危機をもたらしています。鹿児島

②仲間を結ぶ交流

評議会で扱われた小教区活性化への道は、交流、

③信仰の基本を学ぶ

次は「養成」です。小教区は何よりも信仰共同体

④秘跡の力を信じて

三つ目は「秘跡」です。共同体の中で生きるわたしたちの信仰のいのちの恵みのいのちであって、人間の力によってではなく、ミサを中心とする秘跡によるいのちです。ですから、キリストの助けを求める謙遜で真摯な願いを込めて秘跡にあずかる必要があります。さらに、教会共同体を作るのは秘跡であって、行

教会はいま待降節に入りました。互いに呼びかけあつて、ともに御子の受肉と救いの秘跡の理解を深め、祈りと回心に努めてその恵みにあずかることが、待降節の意味であり目的です。皆さんがよい準備をして恵み豊かなクリスマスと新年を迎えられるよう祈って祝福をおくりします。(〇四年十一月二十日)

ご存知ですか?

教会は、世間より一足早く新しい年を迎えます。典

典 礼 曆 年

神の次元の一つとなりまし。この神と時間との関係から、時間を聖化、神のものとする務めが生まれま。それはイスラエルの民がモーセの律法以来、過越祭を中心にして種々の祭りを行っているように、個々の時間、日、週を神に献げることによって果たされま。二千年前、「人類の歴史上、他にまったく類をみな

キリスト教では、時間は根本的に重要で、世界は時間という次元において創造されました。救いの歴史は、時間の中で展開します。受肉したみことばであるイエス・キリストにおいて、時間は永遠そのものである

い出来事」が起こりました。イエスの復活です。それは、時間の神祕のまに中心に位置付けられる出来事です。復活徹夜祭で司式者は、復活のろうそくを祝福しながら時間も永遠もキリストのものであることを宣言します。キリストは時間の初めと終わりであり、年も日も時もみな、キリストの受肉と復活によって包まれています。世界の始まりと最後の運命の秘義は、ここに通じています。歴史を支える真の軸を示すため、教会は一年という区切

<KABAYAN SEKSIYON>

"ANG SAKRAMENTO NG PAGPAPAHID NG LANGIS SA MAYSAKIT"

Ang tatalakayin natin sa buwan na ito ay ang tungkol sa sakramento ng pagpapahid ng langis sa may sakit. Alam ninyo mga Kababayan na ang karamdaman at paghihirap ay isa sa pinakagrabeng problema na hinaharap sa buhay ng tao. Sa karamdaman, ay nararanasan ng tao ang kawalan ng lakas, hangganan at ng kanyang katapusan. Ang bawat karamdaman ay pwedeng magdala sa atin sa kamatayan. Ang karamdaman ay pwedeng magdala sa dalampasigan, kung minsan sa kawalang-pag-asa at paghihimagsik kontra sa Diyos. Sa karamdaman ng tao, siya ay ginagawa rin maging matatag, tinutulungan siyang magnilaynilay ng kanyang buhay kung ano ang hindi mahalaga para siya makaiwas sa anumang kasamaan. Ang kagandahan ng karamdaman ay tinutulungan ang tao na mas hanapin ang Diyos at magbalik-loob sa Kanya. Kaya ang sakramento ng pagpapahid ng langis sa maysakit ay mahalaga sa buhay ng kristiyano, lalo na sa may mga karamdaman. Ang simbahan ay naniniwala na sa tulong ng sakramentong ito, ang maysakit o may karamdaman ay pinapagaling ang kanyang sakit at ibinibigay muli ang lakas at kalusugan. Ang Panginoon mismo ang nagtalaga ng sakramentong ito. Siya ang nagagamot ng mga maysakit sa pamamagitan ng mga pari ng Simbahan. Ibinibigay ito sa mga malubha na ang sakit at kung ang maysakit ay nananampalataya ang kanyang sakit ay pinapagaling at kung mayroon man siyang nagawang kasalanan siya ay pinapatawad. Kaya mga Kababayan, pahalagang natin ang sakramentong ito, dahil ibinibigay muli ang mga handog ng Espiritu Santo, ang lakas, kapayapaan at lakas loob para malaban natin ang mga pagsubok kung tayu ay may karamdaman.

BINABATI KO ANG LAHAT NG... "MALIGAYANG PASKO SA INYONG LAHAT" CHRISTMAS 2004

Fr. Dino A. Orolfo

tel/fax09972-2-0423 keitai:090-2085-1094



12月 幼子の姿で生まれた神のおん子。イエスを黙想しましょう。

【十字架の使徒会祈りの意向】 司祭の召命

1日(水) 戸田教会献堂記念日(一九八五年)

3日(金) 聖フランシスコ・ザビエル司祭 教区の保護者の祝日です。聖師の取次ぎを祈り教区の宣教活動の発展を祈りましょう。

中野裕明神父霊名(聖フランシスコ・ザビエル)

5日(日) 待降節第一主日

宣教地司祭育成の日(献金) 「宣教地司祭育成の日」は、日本だけでなく世界中の宣教地において司祭の育成が大切なことに気づき、そのために祈り、献金をささげよう呼びかけます。

8日(水) 無原罪の聖マリア

12日(日) 待降節第三主日

13日(月) 和光園教会献堂記念日(一九六七年)

17日(金) 中種子教会献堂記念日(一九五八年)

19日(日) 待降節第四主日

20日(月) 大野和夫神父叙階記念日(一九六一年)

24日(金) 降誕祭夜半の司教ミサ・カテドラル・20時

25日(土) 主の降誕

26日(日) 聖家族

27日(月) 聖ヨハネ使徒福音記者

28日(火) 幼子殉教者

31日(金) フェリエ神父大島来島(二八九一年)



1日(土) 神の母聖マリア

4日(火) 七田八十吉神父命日(一九八〇年)

ルカ・デジャック神父命日(一九九八年)

南の島で宣教奉仕者選任式

和泊教会・宣教する小教区活性化の柱に



喜びに湧く沖永良部の信者たち

教区の中
心・司教座
教会から一
番遠いところ
にある沖
永良部の和
泊教会(主
任司教 テ
オドル・メ
ニツヒ神父
信者数一〇
七)では、
去る十一月
七日のミサ
に糸永司教
を迎えて三
人の宣教奉
仕者の選任

の主日の集会において教誨
を行い、会衆に聖体を授与
するという、いわば朗読奉
仕者と主日の集会奉仕者と
を組み合わせたもので、宣
教する小教区のリーダーと
なるよう期待されている。
今回の宣教奉仕者選任
式は昨年の六人に次ぐ二度
目で、転勤したシスター一
人を差し引いて都合八人の
宣教奉仕者が一か所の巡回
教会を含み、五十人近いフ
イリピン系信者を擁する和
泊小教区で活躍することに
なる。

任司教メニツヒ神父の重要
な司牧方針。神父は前任
地・母国教会時代から熱心
にこれに取り組んできた。
また奉仕者たちは司教の勸
めに従い、一般の信者たち
にも呼びかけて、司教の指
導のもと、毎週「カトリッ
ク教会の教え」の勉強に励
んでいる。

主任のメニツヒ神父は
「司教や修道者ばかり頼
らず、信者同士で助け合
い奉仕してほしい」と語った。
なおこの日、所属信
者・大坪涼子さん寄贈の御
子を抱いたマリア像が司教
の手で祝別された。御像は
教会堂に接して新設された
信徒の部屋「ジェラルドハ
ウス」の外の角に正面に向
かって建てられており、訪
れる人をやさしく迎えてい
る。

05 「ワールドユースデーケルン大会」
日本巡礼団募集
団 長・岡田武司(教東京教区)
期 間・8月9日(火)～8月25日(木)
申込金額・二万円(概算旅行代金約二十五万円)
申込先・問合せ先・教区本部(久保)

「聖体の年」の二つの学習会

女性信徒の会が「聖体」を読む

鹿兒島カトリック女性
信徒の会は、過去二十数年
来、教会公文書の読書を通
じて会員の使徒的養成に力
を入れてきたが、「聖体の年」
を迎えた今、現教主ヨ
ハネ・パウロ二世の回勅
『教会にいのちを与える聖
体』の読書を通して聖体へ
の信仰と愛を深めようと努
めている。

や使徒的勧告などの教会公
文書をとりあげて勉強して
きた。読書会を指導するの
は女性信徒の会の要請を受
けた司教自身で、参加者た
ちの質問に答え、必要な指
摘や解説を通して教会の教
えの理解を深め実践的な勸
めを具体的に示す。参加者
たちも順番に朗読を担当
し、熱心にメモを取り、感
想や意見を述べ合っており、
積極的に学習に取り組んでい
る。

読書会が今読んでいる、
昨年聖木曜日に公表された
回勅『教会にいのちを与え
る』

聖体授与の奉仕者に 松田辰雄さん

瀬留教会

高齢化が進む瀬留教会
(主任司教・寝占敦之神父
信者数四三〇)では、去る
十月二十六日、松田辰雄さ
ん(八十歳)が在宅の病人
に聖体を捧持して授けるた
めの奉仕者に選任された。
選任は主任司教の要請にこ
たえて司教が行ったもので
、選任書は十一月七日の
小教区ミサの中で主任司教
から公式に伝達された。
同教会には、現在、四十
人の在宅の病人がおり、こ
れまでクリストロア修道女
会の一人のシスターが主任
司教を助けて病人に聖体を
運んできたが、手が足りな
かったため今回の聖体授与
のための奉仕者の選任とな
った。今後、シスターには
赤尾木地区の約十人、松田
さんには秋名、安木屋場地
区の約八人が聖体奉仕の対
象となる予定だが、時はま
さに聖体の年、聖体への信
仰と愛を育んで教会一致を
推進するよい機会となるこ
とが期待される。

市町村合併に伴う 住所表示変更のお知らせ

薩摩郡から薩摩川内市へ
対象となるのは入来教会、薩来園、幼きイエズス
会入来修道院(薩摩川内市入来町となります)
旧「川内市」から「薩摩川内市」へ
対象となるのは川内教会、鹿兒島純心大学川内キ
ャンパス、川内純心女子高等学校、川内純心幼稚
園、川内聖母幼稚園、長崎純心聖母会の川内・川
内若松・天辰の各修道院
(町名の変更はありません)

姉妹校と 信者の学生交流

純心女子大学

薩摩川内市にある鹿兒
島純心女子大学に学生有志
によるカトリック学生の同
好会「St. Mary's Heart」が
発足した。
発足のきっかけは、長
崎純心大学の「カトリック
学生の会」からの一通の手
紙。

十月十日(日)に長崎
で行われた「カトリック学
生の会」との交流会では、
長崎の教会や大学を見学し
たり、活動の様子などを教
えてもらったりした。
同会の学生たちは、「今
回の交流は活動のいい参考
になった。地域性や信者の
数など違いはあるが、出来
ることからいろんな活動に
チャレンジしていきたい」と
これからの活動に意欲を
燃やしていた。

「短信」

▼吉野教会 一日遠足
吉野教会(橋口啓悟神
父)では、十月三十一日
(日)主日のミサ後、「秋
の一日遠足」を実施した。
参加したのは四十人余り
で、バスで大光明学園、
大口教会、曾木の滝を巡
り、秋の深まりを感じ自
然の中で働く偉大な力を
味わった。

▼ゼローム師のCD
小宿教会(木村敏彦神
父)所属の田下三佐男さ
んがゼローム神父の生前
の姿や告別式の様子など
をCDに収めた「思い出
アルバム」を作製、希望
者に実費で頒布してい
る。CDには田下さん撮
影の百十三枚の写真をは
じめ神父のメッセージが
折り込まれている。問合
せ先 〇九九七-一五五-
〇〇一 田下さんまで

▼垂水幼稚園
十一月一日(月)垂水
幼稚園(園長 田原章神
父)では、恒例の聖母行
列をおこなった。園児約
八十人はマリア神輿を先
頭に幼稚園から垂水教会
までを聖歌を歌い、聖母
への祈りを唱えながら歩
いた。教会では田原園長
から「マリアさまが出現
するのは子どもたちで
す。心がきれいな子ども
をマリアさまは大好きで
す。みんなもきれいな子
にしましょう」と講話を
すると、子どもたちからも
両親の病気の回復や新潟
中越地震被災者や世界平
和のための祈願がなされ
た。

カトリック新聞
へえ、日本の教会は
今こうなんだ・・・
ザビエル
カトリック新聞は、日本のカトリック教
会唯一の週刊全国紙です。
全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直
送いたします。
また、全国のサンパウロ・女子パウロ会
書店でも販売しております。
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円
見本紙贈呈いたします

—お知らせ—
小宿教会の電話番号
は次の通り。〇九九七
—五四—八三三四

県内クリスマスのミサ時間

教会名	24日(金)	25日(土)	教会名	24日(金)	25日(土)
阿久根	19時	9時	垂水	20時	10時
出水	19時	9時	種子島	20時	9時
大口	19時	9時	大笠利	19時	8時
川内	19時30分	9時	瀬留	19時	
国分	19時30分	9時30分	大熊	20時	
溝辺	20時	7時	和光園		8時
始良	20時	10時	浦上		9時30分
玉里	20時	10時	芦花部		18時
吉野	20時	10時	聖心	20時	9時
ザビエル	20時・23時	10時	古田町	19時30分	10時
鴨池	20時	9時	西仲勝・小湊	19時	
紫原	20時	9時	喜界島		15時
谷山	20時	10時	小宿	19時30分	
加世田	19時	10時	大 棚		14時
枕崎		19時	古仁屋	20時	6時30分
指宿	19時	9時	山 間	17時30分	
鹿屋	19時	9時30分	西阿室		15時
星塚	15時		母 間	※未定	※未定
大根占	19時30分	9時30分	和 泊	19時30分	9時
志布志	19時30分	10時			

文芸

短歌 (思川短歌会作品)

阿久根 中津濱フサエ
天草の藍より深きあいの岬静かに眠る大江の霊友
(評) 真の愛を一首に詠み、真摯に祈る夕べの作者が顕著な歌である。

鹿兒島 春山マリ子
信仰が助けた心守り来し尽きる事なく燃ゆる祈りぞ
(評) 祈りに明け暮れる如き、作者の信仰は尊い。友を呼ぶ結句です。

古仁屋 豊島忠司
司祭より御聖体をば拝領し残る奥園の義園で囁み締む
(評) 結句は異論も感じ得るが、聖体拝領を明るく、そして深く表

現されていてよい。

大口 森 博伸

それぞれの愛のかたちよ花に似てゆずれぬころの色よ香りよ
みこころを去りし君住む町を往く
駅舎の跡のコスモスの花
(評) 愛の尊さを客観的に詠み得た歌。「コスモスの花」の結句が美しい。

出水 遠竹睦郎

洗礼の恵みに預り三十年吾れ古希近き齡となりぬ
シベリアの速き国より訪れし万羽の鶴は優雅に舞へり
(評) 静寂の中に心と形の美しさを感じさせる佳作。

名瀬 林 明子

冬がくるこの旅路には春がくるそう思いたいさびしい道も

良書紹介

横濱教区典礼委員会編

「ゆるしの秘跡」そのすばらしさの再発見」女子パウロ会

ゆるしの秘跡に関する手引きを作成してほしいという全国からの要望にこたえるため、カトリック中央協議会典礼委員会において実質的に作業を担当した横濱教区典礼委員会が作成したものである。掟に背くことが罪とは簡単には言えない。掟が目指す価値を実現することが大切で、罪とは、神が結ぼうとしておられる愛のきずなを、人間の一方的な勝手な思いや行いで傷めたり、損なったりしてしまうことである。自分の罪がわかるためには、どこで神に背いたかと考えるまえに、神が自分のために何を



ザビエルさまの散歩道 聖師を霊名に頂く

鹿兒島教区には現在約九三〇〇人の信者がいます。そして皆さんそれぞれに、さまざまな思いを込めて、洗礼名がつけられています。自分で選んで付けた人もいれば、親や代父母がつけてくれた人もいます。

そんな洗礼名に鹿兒島教区の保護者でもある聖フランシスコ・ザビエルの名をもらっている信徒

してくださったかを考えること、神はわたしたちが悔い改めるまえからゆるしてくださっていることや、告白すべきことかどうか迷う具体的な例、糾明のヒント、子供に初めてゆるしの秘跡を受けさせる場合の注意点などがわかりやすく書かれている。(税別八百円)

生きることをためらってすべてをたら意味がないよねマザーテレサ

(評) 多作を試みる作者の作品は、温かい祈りの心が伝わってくる。

初日出る落への小径二つ影 風邪ひいて乱調さす喉仏

(評) 二句とも結句がよい。特に「二つ影」は感動を呼ぶ作。

俳句 (思川俳句会作品)

鹿兒島 田平新太郎

父恩ぶ萬年青の黄葉あかねさすバラの小鉢をいだく如くに
遠足や学園めぐる聖句月に
秋天にお告げの鐘の響く街
台風にめげず巨木に主の力
(評) 明るくまとめた佳作です。「響く街」の結句がよい。

鹿兒島 春山マリ子

キラキラと光るツリーに夢乗せむクリスマス主よ来ませりの唄ひびく
白い雪降り積りゆく風景や
(評) 主よ来ませりの「賛美歌」が聞こえて来る句。「夢乗せむ」も前向きでよい。

名瀬 松畑義弘

拍子木の遠のく音や冴ゆる風
おはら祭さつまお女は意気高し赤き実を啄む鳥や冬の庭
(評) おはら祭のうた声が聞こえてくる句。「冬の庭」もよい。

鹿兒島 龍門司真人

集いのお知らせ

川内市民クリスマス

12月5日(日) 14時~16時 川内文化ホール 歌と聖劇など 入場料:前売一般1,000円(当日1,200円)・小中高生500円(当日600円)

鹿兒島市民クリスマス

12月12日(日) 14時~16時 鹿兒島カテドラルザビエル記念聖堂 講演:森の時間(講師:C・W・ニコル氏)音楽 入場料:前売1,000円(当日1,300円)中学生以下無料 主催:鹿兒島キリスト教連合

聖母幼稚園創立50周年記念イベント

12月26日(日) 10時30分~12時30分 サンロイヤルホテル 講演会(講師:相良敦子清泉女子学院大学教授)演奏会(純心学園ブラスバンド部・聖母幼稚園児他)

◆黙想会「成熟した信仰をめざして」(講師:W・キップス神父 臨床パストラルケア教育センター所長・レデンプトール会) 12月11日(土) 14時~12日(日) 16時 マリア山荘 申込:099(264)2694松山0995(63)1943西 ※聖書持参のこと

名瀬市民クリスマス

12月19日(日) 14時~16時 聖心教会聖堂 講演:山谷えり子(参議院議員) 入場無料

召命祈願ミサ

日時 十二月五日(日) 午後五時から

場所 鹿兒島カテドラル

司式 糸永真一司教

説教 郡山健次郎師(志布志教会主任司祭)

宣教地司祭育成の日この日、郡山師ご自身の召命を語っていただきながら、鹿兒島教区における司祭召命を祈ります。

私、ザビエル家の子孫です

いらつしゃい

十一月四日(木)鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂にポルトガルからの巡礼団がやって来た。驚いたのは、その中に



ザビエル家の子孫に当たる方がいらつしゃったこと。その方はマリア・ペ・オルテギ・アゼナレスさん(三十六歳)、ポルト在住の女医さん。

ザビエル家の十三代目に当たるというマリアさんは、約二週間の日本滞在中に鹿兒島を訪問したのだった。彼女のたつての希望でザビエル記念聖堂を訪問した巡礼団は、聖堂に安置されているザビエルの遺物の前に花を手向け、感慨深げに祈りをささげていた。